

喘息ニュース 7月号

発行 西淀病院・のぞと診療所
喘息グループ

7月に入り、そろそろ夏も本番！ですね。
毎日暑い日が続きます。体調の変化には気をつけましょう。



その1 喘息の検査には何があるの？



喘息の検査には、血液検査・喀痰検査・胸部レントゲン・スパイロ検査などいろいろありますが、今回はスパイロ検査（肺機能検査）について取り上げたいと思います。

その2 スパイロ検査って何？

スパイロ検査とは、肺機能を見る検査です。実際には丸い筒をくわえて、鼻をノーズクリップと呼ばれるせんたくばさみのようなものでつまんで、吸ったりはいたりを繰り返す検査で、検査時間は約5-10分程度です。（スパイロには簡易検査と精密検査があり、精密検査になると約30-45分程度かかります。）

スパイロメーター



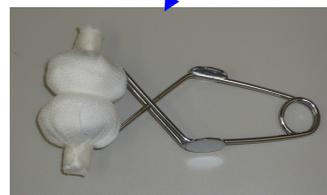
その3 何故検査は必要なのか？

スパイロでは主に、

- ・喘息の程度の診断
- ・現在の状態を知る・・・気道の状態はどうか？
コントロールはできているか？

これらのことを知るのを目的に行っています。喘息の程度・検査時の体調などにより検査値が異なるので、定期的に行います。

ノーズクリップ



その4 スパイロ検査で何を見ている？

- ・肺活量（VC）：最大まで吸って最後まではき出した量

正常値 80%以上

- ・努力性肺活量（FVC）：息を最大まで吸って勢いよく最後まではき出した量

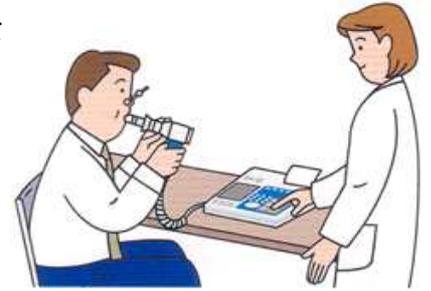
正常値 70%以上

- ・1秒量（FEV1.0）：努力性肺活量のうち、1秒間にはきだした量
- ・ピークフロー（PEF）：息をはき出した時の勢い

⇒ 喘息の診断にはかかせないものを測定しています！

その4 検査を受ける時の注意点

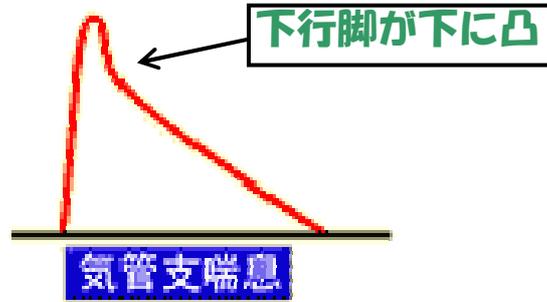
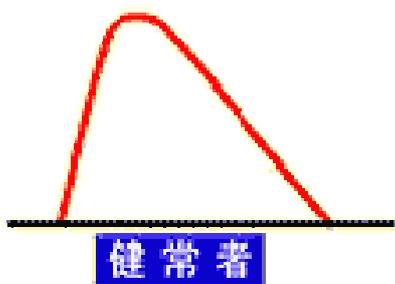
この検査は検査を受けている患者さまの努力が必要です！
(もちろん検査をする側も頑張ってる声かけしていますが・・・)
努力不足では検査値が正しく出せず、正確な評価はできません。
ただし、調子が悪い時は遠慮無く申し出て下さい。
調子が悪いときに無理矢理すると、かえって喘息発作を誘発してしまうことがあります。



その5 喘息の人とはどんな結果になる？

喘息の人とは気管の壁が敏感で厚くなっているため、空気の通り道が狭くなっています。
そのため、ゆっくりはいた時はたくさんはけますが、いっぺんにたくさんはこうとしても一度にはくことはできません。

フローボリューム曲線



- ゆっくりはいた時はたくさんはくことができる
= 通常肺活量 (VC) は正常
- 気管支の壁が厚くなっているため、一度にたくさんはけない
= 1秒率や1秒量*は低下する
- 吐き出す時の勢いが弱い
= ピークフローは低下する

※1秒量とは？
フローボリューム曲線で
1秒間にはき出した量



喘息に関する検査はしんどいものが多いですが、
頑張ってください！
(私たちスタッフも頑張ってる声かけします！)

